

飛び出せ 学校

この新聞は、別府市春木川小学校の5年生（川口真琴教諭、竹島大喜教諭＝66人）が、大分合同新聞の記者と一緒に作りました。
＝学年と肩書は昨年度＝

大分合同小学生新聞

発行所
別府市
春木川小学校
5年生

私たち別府市春木川小学校の5年生は「春木の自慢」について調べようという課題を、地域のみなさんにインタビューしました。取材を通して、普段何げなく生活している私たちの街の中にも、知らなかったことがたくさんあることに気がきました。八幡石垣神社、実相寺古墳群、春木川のそれぞれの良さや地域の人の思いを紙面にまとめました。皆さんにも私たちの「春木の自慢」を知ってもらえたらいいです。



春木川にすんでいる生き物たちを紹介しよう。春木川でよく見かける鳥は、サギ、カモ、カワセミです。カモの親子がかわいく水面を渡っているのを見ることができ



春木川の大切な守護神

私たちの学校のすぐ横を流れる春木川は、鍋山と天平山の間から流れてくる全長16kmの川です。川を守っている皆さんはどのようなことをしているのか聞こうと「春木川を守る会」の会長の左山浩司さん(86)に取材しました。メンバーは約70人で、平均年齢は60～70歳ということです。年に6回ほど土手に生えている草を刈っています。作業をする人を集める時は、左山さんが一人一人に電話をかけていることを知って驚きました。左山さんは「春木川を他の川よりきれいにしたいから、この活動を頑張っています」と話していました。私たちが春木川の様子を見に行った時に、ちょうど草刈りをしている方々がいました。話を聞くと、県の土木事務所から年に1回草刈りを頼まれて丸1日かけて刈っていることを知りました。このような人たちの作業によって、いつもきれいな土手を保つことが

できていることを知りました。私たちが春木川のごみ拾いに行った時には、空き缶やお菓子のごみ、ライターなど危ないごみもありました。私たちが親しんでいる春木川が汚れた川にならないように、みんなでごみを拾ったり、ポイ捨てなどをしたりしないようにお願いしていきたいと思いました。



春木川を守る会の人たちがそうじをしているところ

最古の宝 八幡石垣神社



私たちは、春木川小のみんながよく知っている八幡石垣神社について調べようとして、絵や写真を集めてきました。八幡石垣神社は100年以上の歴史があり、別府市で最も古い八幡宮といわれています。2016年に起きた熊本・大分地震によって神社の入り口にある鳥居は倒壊しましたが、地域のみなさんの協力によって再建されました。神社では年間さまざまなお祭りが行われていますが、中でも代表的な四つを紹介したいと思います。春季大祭は春木川周辺の12町をおみこして回ります。水神祭は「水不足にならず



今も残る太郎塚古墳(左)と次郎塚古墳

私たちの住んでいる春木川小学校区には、今から約1400年前にできた実相寺古墳群があります。実相寺古墳群は、古墳を中心として、太郎塚古墳、次郎塚古墳、天神畑古墳、1号墳・2号墳からなる古墳群です。私たちは、実相寺古墳群について調べたところ、別府市教委社会教育課の秦広之さん(45)にお話を伺いました。古墳とは、古くから墓のことです。秦さんによると、別府にある古墳群は6世紀後半から7世紀初めまで、およそ50年間という短い間に立て続けに造られたそうです。古墳の形は、円形や方形で、それ以外には四角い形をした円墳です。方墳は同じ時代には大分県に一つしかなく、とても身分の高い人が入るお墓であったことから、600年代の別府には大きな力を持った人物がいたこと、そして当時の大和政権にとって重要な場所であったことが考えられます。太郎塚古墳や次郎塚古墳を、実際に見ました。山形に膨らんだ古墳が今も残っていました。私たちの周りに古代の別府の一部が残っていることに驚きました。歴史あるものをこれからも残していきたいです。

私たちが作りました

1組(写真上)と2組の児童



に農業がうまくいきますように」「お米がたくさん取れますように」という願いを込めて行われます。水神祭と同じように「農業がうまくいきますように」「台風などの被害が出ないように」という願いを込めて行われるのが風神祭です。そして、穀物の豊作に感謝する秋季大祭が行われます。私たちは、遊びの場所になっている八幡

石垣神社が農業の発展を願う神社であることとを知らずして、取材に協力してくださった田代寛さんは「この神社のことをもっと多くの人に知ってもらい、これからも大事にしてほしいです」と話していました。

新聞ができるまで

「普段何げなく生活している春木川小学校区の自慢できるところはなんだろう」。別府市春木川小5年生66人は地域のみなさんにも知られていないことを伝えたいと学校を飛び出して、取材へと取りかかった。小学校の前を流れる春木川、すぐに思い付く団体が「春木川を守る会」。児童たちは会長である左山浩司さん(86)に話を聞いた。きれいに保つための活動などについて質問し、思いに共感、自然保護の大切さを再確認した。子どもたちの遊び場でもある八幡石垣神社にも取材に向かった。総代の田代寛さん(73)から、2016年の熊本・大分地震によって倒壊した鳥居が地域の人の手によって再建された話や、同神社で開いている代表的な四つの祭りの由来などを教わり、知識を深めた。校区内にある「実相寺古墳群」に



㊤「なぜそうなったのか、理由をしっかりと聞きましょう」。別府総局の徳光瑞稀記者からインタビューの仕方を学んだ(2021年6月3日) ㊦取材を通して神社の歴史や祭りに込められた願いを知った(同年10月18日) ㊧ニュース編集部浅井優輔記者から見出しの付け方のコツを教してもらった(2022年2月22日)

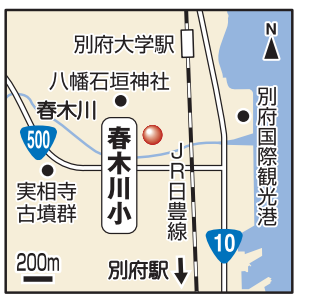
についても調べるため、市教委社会教育課の秦広之さん(45)にインタビュー。実際に古墳に足を運んだ上に、秦さんから「別府は大和政権にとって重要な場所だったことが考えられ

る」との説明を聞き、歴史的な地域の財産を再発見できた。児童たちは「知らなかった校区内の魅力に気付いたので、多くの人にも知ってもらいたい」と話した。

大分合同新聞社別府総局の徳光瑞稀記者(24)が取材の仕方をアドバイス。見出しの付け方やレイアウトは同ニュース編集部の浅井優輔記者(34)が指導した。

この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。097・538・9729、Eメールnie@oita-press.co.jp

校区の隠れた魅力発見



新聞づくりの様子をご覧ください